令和８年度

「運営に関する計画」

大阪市立南百済小学校

令和８年１０月

（様式１）

大阪市立南百済小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題・・・令和７年度の結果から

【安全・安心な教育の推進】

小学校学力経年調査(以下経年調査)・校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を９５％以上にすることを目標にしていた。しかし、前年度の経年調査では９２％・校内調査では９４．３％と目標を下回った。児童の情報共有はできているため、これからどのようなアプローチをしていくのか考え実行していく必要がある。また、今後も年２回継続していじめに対する研修や授業を計画的に行っていく。そして、いじめが認知された場合は、すぐに解消に向けて対応していく。

校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」という質問項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合は、８８％と目標である９４％を下回った。引き続き、自尊感情が向上するような取組を行い、道徳や他教科の授業の際に、児童の意見を大切に尊重していく。また、学校だけでなく、家庭・地域と連携した取組が必要である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．５ポイント向上させる」という目標に対して、達成した学年と達成できなかった学年があった。前年度の結果を踏まえて課題となる領域を分析し、次年度は重点的に指導していきたい。

「小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．５ポイント向上させる」いう目標に対して、達成した学年と達成できなかった学年があった。算数科も国語科と同様に、前年度の結果を踏まえて課題となる領域を分析し、本年度は重点的に指導していきたい。

「ソフトボール投げの記録を、１学期と２学期にそれぞれ計測して児童全体の５０％以上向上させる」という項目に対して、児童４４８名中２６９名の記録が向上し(約６０％)目標を達成することができた。引き続き、各学期に１回ソフトボール投げの記録の計測をするとともに、「ボールの投げ方」に関する指導法を教員間で共通理解を図っていく。

【学びを支える教育環境の充実】

「授業日において、児童の８割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする」に対して、前年度の結果は１６．９％だった。引き続き学習者端末を様々な場面で活用していく。また、端末活用について異学年の教員と実践事例を共有するとともに、研修の機会を設けることで、授業改善につながる活用の定着を図っていく。

「教員の一人当たり平均時間外勤務時間において、大阪市平均との差を１０分縮める」に対して、前年度は5時間以上と大きく差が開く結果になった。行事への取組について見直しを行い、教職員の負担軽減や業務の効率化を進め、働きやすい環境づくりを推進していく。

令和７年度校内調査における「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を７９．７％で目標の８０％を下回る結果となった。そして、令和７年度校内調査における「学校図書館貸出冊数（児童１人当たりの年間貸出冊数)『昨年度２３冊』を２３冊以上にする」に対して、結果は約２５冊だった。今後も引き続き図書に関する取組を行い、読書習慣の定着を図っていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を９５％にする。

○令和１１年度年の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８６％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．１ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．１ポイント向上させる。

○ソフトボール投げの記録を、１学期と２学期にそれぞれ計測して児童全体の５０％以上向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和１１年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童を３５％以上にする。

○本校の教員の一人当たり平均時間外勤務時間を大阪市平均と比較し、その差を１時間縮める。
（令和７年１２月時点　＋５時間５１分）

○毎年校内調査における「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標

学校園の年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめ対応を行っている」と回答する教員の割合を９０％にする。

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。（令和７年度８３．７％）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．１ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．１ポイント向上させる。

○ソフトボール投げの記録を、１学期と２学期にそれぞれ計測して児童全体の５０％以上向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和８年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童を２５％以上にする。

○本校の教員の一人当たり平均時間外勤務時間を大阪市平均と比較し、その差を１０分縮める。

○校内調査における「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。

（様式２）

大阪市立南百済小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を９０％にする。	―

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育の環境の実現】 ・「いじめについて考える日」を中心に、各学年の実態に応じた取組を行う。また、教職員研修を実施し、「いじめを絶対に許さない」という共通認識のもと、児童が安心して過ごせる環境づくりを進める。さらに、これらの取組を一過性のものにせず、日常の学級経営の中で継続して、児童のいじめに対する意識を高めていく。	B
指標 ・１学期に「いじめについて考える日」を実施し、全学級で児童とともにいじめについて考える機会を設ける。 ・教職員研修を年間２回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向１　安全・安心な教育の環境の実現】 ・日々の児童の様子について、全教職員で情報を記録・共有し、実態に応じた指導や支援が行える体制を整える。	B
指標 ・日々の児童理解研修の時間を職員会議後に設定し、全教職員で共通理解を図る。 ・課題が見られる場合は、部会やスクリーニング会議等を活用し、早期対応・早期解決につなげる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①１学期に「いじめについて考える日」を実施し、全校でいじめについて考える機会を設けることができた。また、いじめ事案が発生した際には、教職員で情報共有を行い、早期に対応することができた。一方で、児童のいじめに対する意識については、日常の生活の中で相手の気持ちを考えて行動するところまでには至っていない児童もいる。今後も、特別な取組だけでなく、日常の学級経営や生活指導の中で継続的に働きかけていく必要がある。

②職員会議後に児童理解の時間を設定し、児童の様子を共有する機会を確保している。情報共有の場として成果がある一方、限られた時間の中でより効果的に児童の実態を共有し、具体的な支援につなげるため、今後は会の進め方や共有する内容について検討していく必要がある。

後期に向けて

①後期は、「いじめについて考える日」での学びを一過性の取組にせず、日常の学級経営や生活指導の中で継続して取り組む。特に、相手の気持ちを考えることや困っている友達に気付くこと、安心して過ごせる関係づくりを意識した声かけや指導を各学級で進め、児童意識の向上に努めていく。

②児童理解については、職員間で必要な情報を共有し、早期対応・早期解決につなげるという現在の取組を継続するとともに、会の進め方や情報共有の方法を見直し、より実効性のある児童理解の時間となるよう改善していく。

（様式２）

大阪市立南百済小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。（令和７年度８３．７％）	―

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ・道徳の授業や日常の教育活動を通して、自分のよさに気づかせる指導を行う。また、「いいところ見つけ」などの活動を継続的に行い、自尊感情の向上を図る。	B
指標 ・「個性の伸長」に関する授業や取組を、年間を通して計画的に実施する。 ・帰りの会や授業の中で、「いいところ見つけ」を継続的に行う。 ・自尊感情を高める取組（自尊感情週間）を全校で実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①道徳科の授業や日常の教育活動を通して、児童が自分のよさに気づき、自己肯定感を高められるよう指導を進めている。また、11 月には自尊感情を高める週間を全校で実施し、自分や友達のよさに気づく機会を設けている。さらに、朝の会や終わりの会などで「いいとこみつけ」に取り組み、日常的に友達のよさを認め合う機会を設けている学年もある。一方で、各学年でこれまでどのような取組を行ってきたのかを、十分に蓄積できていない。
後期に向けて
①各学年で行っている「いいところみつけ」等の取組について、年間を通して実施時期や内容などをデータに残し、学校として蓄積していく。児童の実態に応じて取組を工夫することを前提としながら、これまでの実践を次年度以降の取組を考える際の資料として活用できるようにする。

（様式２）

大阪市立南百済小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．１ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０．１ポイント向上させる。 ○ソフトボール投げの記録を、１学期と２学期にそれぞれ計測して児童全体の５０％以上を向上させる。	― ― ―

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・国語科と算数科において、漢字の読み書きや計算問題などを中心に反復練習を行い、基礎的な能力の向上を図る。	C
指標 ・週に１回以上 Navima や学習プリントを用いた自主学習を取り入れる。	
取組内容②【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・各教科で効果的な話し合い活動ができるよう聞き方や話し方を指導し、積極的にペアやグループでの活動を取り入れる。	B
指標 ・週に５回以上ペアやグループなどで話し合う活動を取り入れる。	
取組内容③【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・体育の時間に行うボール運動を中心に、遠投大会などの投げる運動に関する企画や環境の整備を行い、児童が運動に親しむ機会が増えるようにする。	B
指標 ・年に２回以上、「投」に関する運動に親しむ取組を学年や全校で行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①指標に掲げているとおり、Navima や学習プリントを用いて、朝の学習の時間や授業時間の一部を使った学習の機会を設定している。また、タブレット端末を持ち帰る際には、Navima やウェブサイトを使っての調べ学習等を行っている。

また、国語科や算数科の基礎基本の定着を図るために、次のような取り組みをしている学年がある。

・国語科の新出漢字について、反復練習を実施したり、モニターに漢字を表示し、瞬時に答えさせたりする“漢字フラッシュ”を行う。

・授業で分からない言葉や問題が出てきたら、タブレット端末で検索し、解決策を模索する。こうした取組の中で、自主性の高まりが見られる面もある。しかし、自分の課題に応じて自主的に学習を進めるのではなく、あくまで教員から与えられた課題を進めている児童も多くいるため、自主学習の進め方や指導の仕方には課題が残っている。

②席を調整したり、話型を用いて定型文を覚えさせたりすることで円滑にペア・グループ活動ができるように心掛けた。主に国語科と算数科で、自分の考えを伝え合ったり、ノートに書かれた考えを

見せ合ったりする場を設定した。 ③一学期にソフトボール投げの記録を計測する前に、遠くに投げるためのコツや投げ方について各学級で指導を行った。また、体育委員による「投」に関する企画を実施し、で「投」の活動に楽しんで参加する児童の姿が見られた。１１月中旬にも、体育委員による「投」に関する企画が実施される予定である。一方で、体育の時間にボール運動の学習を十分に行えていない学年もある。
後期に向けて
①Navima に取り組むことで一定の力が身に付くと考えられるので、後期も積極的に活用していく。自主性を伸ばすためにも、学習プリントや Navima などいくつかの学習の手立ての中から、児童が自分に必要な学習を選択できるような環境を作っていく。タブレットの持ち帰りを行い、自宅での自主学習を促す。 ②話し合い活動では、必要に応じて聞き方指導を徹底し、児童へ話し方(話型)を提示していく。 ③１１月中旬頃に体育委員による「最後の一投チャレンジ週間」が実施予定である。また、各学年「投」に関する運動を体育の学習の中で実施する。そして、１１月下旬に２学期のソフトボール投げの記録を測定し、１学期からの変容をみていく。

（様式２）

大阪市立南百済小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○令和８年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童を２５％以上にする。**R8.9 月　91.2%** ○本校の教員の一人当たり平均時間外勤務時間を大阪市平均と比較し、その差を１０分縮める。（令和７年度　１２月　＋５時間５１分）　**R8.9 月全市比較　+2 時間 56 分** ○校内調査における「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。（令和７年度　７９．７％）　**R8.9 月　83%**	A C B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育ＤＸの推進】 ・各教科の単元指導計画や特別活動、南百済タイムにおける活動を工夫することで、学習者端末を積極的に活用する。	A
指標 ・毎日１回以上学習者端末を活用する。	
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・校務分掌等、仕事の偏りがないようにする。会議を精選し、その在り方を見直す。	C
指標 ・月に２回ゆとりの日を設定する。	
取組内容③【基本的な方向８　生涯学習の支援】 ・学校司書と協力し、読書に対する興味関心を高め、貸出冊数を増やす取組を行う。	A
指標 ・学期に１回、図書に関する取組を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①毎朝の「こころの天気」「連絡帳」の入力、各教科の学習や朝の学習（南百済タイム）における Navima 他アプリケーション、ウェブサイト等の活用に学習者用端末を使用している。その結果、目標の２５％を大きく上回ることができた。

②「ゆとりの日」については、指標に沿って設定されている。しかし、それが時間外勤務時間の短縮には直結しておらず、大阪市平均との差は現時点での累計で６時間以上となっている。
会議の回数を減らそうと工夫したり、ゆとりの日も設定されたりしているが、それでも会議の回数や授業準備等が多く、仕事の偏りや時期により難しい時がある。

③１０月に実施した校内アンケートにおいて「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童が８２．９％であった。普段の図書館開放に加えて、１学期は図書委員を中心に「読書おみくじ」を行った。その結果、図書室への来室が増え、貸出冊数も伸びている。また、教員による読み聞かせや、図書委員によるポップ作り、「先生のおすすめ本」コーナーを設けたこと等、読書への関心を高めたり、選ぶ本の幅を広げたりすることができているため、校内アンケートの結果に結びついていると考えられる。

後期に向けて
①活用場面の交流（共有）や研修を行い、授業等で活用できる場を増やしていきたい。(学習の振り返りや算数の図形の学習、 Navima の活用など）また、教育ＤＸの推進のための時間の確保が必要である。 ②校務分掌や会議（時間の設定・内容)・行事について精選・検討する。 職員朝会の回数やタイミング（職員会議のある日と可能な限り重複を避ける）を見直す。 ③２学期は１１月１６日から２週間「読書ビンゴ」を実施予定である。